

津軽海峡マグロ女子会～海を越えてつながる同志～

津軽海峡マグロ女子会（温泉旅館矢野 若女将 杉本 夏子）

津軽海峡マグロ女子会、略して「マグ女」とお呼び下さい。

私たちは、津軽海峡をぐるっと囲み自分の生まれた土地に誇りを持ち、マグロのようにたくましくチャレンジし続ける南北海道と青森県の女たちのアライアンス。地元愛にあふれキラキラ輝く女たちが、しなやかにしたたかに泳ぎ続けます。

私は、中高大および銀行勤務で地元を離れましたが、現在は家業である松前の温泉旅館矢野を継ぎました。今思えば、これは運命と思っています。事の始まりは、観光立国宣言の年。青森県大間の地域おこしグループ「あおぞら組」組長で、幸せな笑いで包みこむパワーの持ち主の島康子さん（通称やっこ姐さん）との運命的な出会いでした。松前の私は海の向こうに青森をみて、やっこ姉さんは北海道をみて育ちました。そんな私たちは、観光庁のシンポジウムで出会い、いつの日か一緒に津軽海峡圏をつくり、前進することを誓いました。近いようで遠い、しかし文化・言葉・風習など各所に共通点を感じる私たちが、地域をつなぐため、2014年3月にマグ女を立ち上げました。

現在のメンバーは68名。主婦、マスコミ、美容師、行政マン、カフェマダム、起業家、デザイナーなど、多種多様で個性的なメンバーの塊です。一方で国を挙げた地域創生という言葉聞きながら、現場で多分野にわたる挑戦をしています。男性については、マグ女にちなみ「マグ男」と名付け、さらに見返りを求めず力と行動を提供してくれる人を、マグロの餌であるイカにちなみ「イガメンズ」と呼んでいます。

私たちが暮らす津軽海峡圏は、お帰りのなさいと言える地域



写真 マグ女の企画会議の風景（右から2番目が杉本夏子氏、3番目が島康子氏）

なのだろうか？
大事なことは、地域に暮らす私たちが「どんな故郷をのこしたいのか？」について利害や立場を超えていることだと思っています。マグ女

の掟の一つに、口をだすなら行動する。があります。評論家はいらぬということです。事業毎にスレッドを立ち上げ情報共有します。自らが動ける活動には積極的に意見し、誠意をもって参画する、という考え方に基づき動く活動隊です。

他に、自らの町を自慢する前にまず隣の町を褒める、という掟を持ちます。そこには、よきライバルであり、また同志として共存共栄しようという考え方があります。まずはお互いを知る！そのために、津軽海峡エリアでマグ女企画のモニターツアーやプログラムを生み出してきました。地元を愛する私たちだからこそできる企画です。

津軽海峡圏には、どこも素晴らしい景色、美味しい食べ物があります。地域の本質的な価値を見出すため血を混ぜる（交流する）必要があると考えます。つまり、連携する事により良い意味でライバルになります。共存共栄の上で、切磋琢磨します。とんがった地域の価値を見出すために、北海道新幹線の札幌延伸に対応するために、私達がマグ女として繋がることはとても大事なことと信じています。

2016年3月26日の北海道新幹線開業後には、「海をつなぐ感じる旅！」をコンセプトに、津軽海峡に生息するマグ女一人一人がパビリオンとなり、同時多発的にマグ女ならではの「マグ女のセイカン博」を開催いたします。ここにしかない人や地域との出会いを表現していきたいと思っています。

最後に、私達の行動は、他人に決められるものではない。目指すべき成果・結果は、自分の町に誇りを持ち、住み続け故郷をつくることです。この町に生まれて幸せだったと思えたら最高でしょう。1年2年ではなく、10年20年にわたり、よきライバルであり仲間たちと支え合い、笑い合いながら津軽海峡圏をつくりあげていきたいと思っています。



写真 モニターツアーにてマグ女ポーズ